



双塔

カトリック新潟教会

2018年4月
No. 359

私はよみがえった

協力司祭 鎌田 耕一郎

（復活の朝）墓を訪れた婦人たちの見たものは、驚くべき事実であった。婦人たちは自分の目を疑ったに違いない。道々、心配してきた石は取り除かれ、埋葬室は空っぽだったからである。婦人たちの心の中には、聖金曜日の暗い記憶が重苦しく淀んでいた。「私は虫であって人ではない」（詩編21・6）と述べられたことはすべて真実であり、暗い惨めな幕切れであった。イエスが十字架の上で息絶えられたことは誰も疑うことができなかつたからである。

復活の朝が訪れる。澄み切った薄明の中で、イエスを愛した人々が、心の中に最初に感じたものは、信仰の喜びではなかつた。あり得べからざることに対する驚きと疑い、天使の告げを聞いた時の疑い、婦人たちの知らせを聞く弟子たちの焦燥、マリア・マグダレナの嘆きと涙がそれである。やがて、弟子たちの心に、主の約束がよみがえり、マグダレナは涙で曇った眼の中に主を認め、「ラボニ（師よ）」と呼びかけるのである。

ご復活は、闇の中に差しこむ輝かしい光のようであり、そして、光の中における主イエス・キリストとの再会の時である。婦人たちのように、愛の香油の壺を携える人々、ペトロとヨハネのように、失望の中にあっても知らせを聞いて、墓まで息を切らせて走り、主のもとに行こうとする人々、マグダレナのように神の愛の記憶に泣き、墓を去ることの出来ぬ狂おしいばかりの愛に燃える人々は、ご復活の朝、太陽の昇るあけぼのに、主と出会い、その死を超えた栄光の御顔を仰ぐのである。

天使は復活の主がガリラヤで待つと告げている（マルコ16・7）。「私たち一人ひとりの生活の中には——或いは、少なくとも私たちの中で、一日（いちじつ）救い主に出会い、彼を愛したことのある者の生活の中には、——一つのガリラヤがある」（“イエズス”カルメル会訳）。最初の出会いの感動と新鮮さである心のガリラヤに帰ることを、主は望まれる。復活の日、私たちもガリラヤに帰らねばならない。そこで、栄光のキリストがお待ちになられているのだから……。

（復活の夕べ）復活の日、エルサレムから約10キロばかりのところであり、いまは確認の困難な村エンマウスを目指して、歩いて行く二人の弟子があつた。丘の間に、曲がりくねった小道が続き、いたるところに、岩やわずかな植物の茂み、時にオリーブの木立も見え、その季節には赤いアネモネとバラ色のシクラメンが咲いていたはずである。

彼らの話題は、もっぱらナザレのイエスに起きた悲劇についてであった。突然、見知らぬ旅人が近づいて来て、旅を共にしたのである。弟子たちは語らずにはおられない、あの苦しい出来事を、イエスが生きておられるという、噂のあることも付け加えて語つたのである。時が過ぎ、村に到着した。食事をするために招き、見知らぬ人がパンを裂く時、「彼らの目が開け、それがイエスであつたとわかつた」（ルカ24・31）のである。村に近づいたとき、イエスはそのまま去って行かれるように見えた。彼らは「私たちと、一緒におとまりください。夕暮れが近づき、日もはやおちようとしています」（ルカ24・29）といて強いてとめた。これは復活の日の夕の祈りであり、また人生の旅路の終わりの祈りでもある。その時、主キリストは、歩みをとどめ、ともに食卓につき、レンブラントの描く「エンマウスの巡礼者」（ルーブル美術館）のように、影の中に浮かぶキリストの光に目が開かれるであろう。

■ 四旬節黙想会 ---- 3月10日(土)・11日(日) ----

「それから、“霊”はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた」(マルコ1・12-13)。千原道昭神父様(イエズス・マリアの聖心会、山形教会主任)は、自己紹介を兼ねてご自分の召命のこと、司祭として、修道会会員としての奉仕職を果たす中で得た病の体験などを語りながら、テーマである「恵みとしての荒れ野の体験」への黙想へと会衆を導かれた。イエスにとって荒れ野は「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」(マルコ1・11、原文は「わたしはお前の中で喜ぶ」と言われた御父との絆を確かめる場であり、弟子たちの休息の場、そして人々にパンを与える場となっていた。モーセは生涯を終える前にイスラエルの40年間(荒れ野)を振り返ることとなったが、イエスは荒れ野を恵みに代えてくださった。

二日目はちょうど東日本大震災が発生して7年。「今もなお苦しんでいる人々にとって、荒れ野がいつか恵みになることを祈っている」と、講話を結ばれた。

■ 教会学校 ---- 1月～3月 ----

月に一度の教会学校。1月はラウル神父様と「バベルの塔」を、2月は岡神学生と「アブラハムの物語」を学んだ。勉強の後は青年達とお楽しみ時間。1月はカトリックカルタで盛り上がり、2月は春を待ちながらイチゴ大福づくりに挑戦した。参加者も会を重ねるごとに増えて、2月は小中高校生7名の参加があった。

3月10日(土)平昌オリンピックの興奮冷めやらず、希望者を募って新潟アイスアリーナに出かけ、スケートを楽しみ親睦を深めた。小学生5人、中学生1人、高校生2人を含む23人の参加があった。

3月25日(日)の教会学校は、9時半ミサ後に聖堂で「十字架の道行き」を行い、その後センター2階和室で終業式の予定。(十字架の道行きは、どなたでも参加可)

また4月1日(日)復活祭祝賀会後に「卵さがし」を予定。小中高校生の皆さん、どうぞご参加を！
《対象》小学生《日時》3/25、4/1、4/22、5/27、6/24、7/22。いずれも9時半ミサ後～12時《場所》センター2階和室

あゆみ

No.89 教会運営委員会

講座「知ってるつもり?! 典礼のしるし、ことば、動作」

指 導 主任司祭 ラウル神父

開催日時 2018年4月14日(土) 午前10時～11時

会 場 カトリックセンター研究室

※ 事前に準備するものではありません。どなたでもお気軽にご参加ください。